

## 紅大豆を活用した多様な商品開発

◆課題名 紅大豆生産振興による産業創出  
◆活動の対象 川西町紅大豆生産研究会

### ねらい

川西町内で在来品種として栽培されていた赤大豆を地域特産品とすべく、川西「紅大豆」として18年度から本格的生産に乗り出し「川西町紅大豆生産研究会」を発足させている。

紅大豆は実需側からも注目されており、県内外の豆腐、味噌、納豆などの加工業者を中心として、菓子メーカーからも問い合わせがある。

在来品種のため、生育が不安定であり栽培方法が未確立なことから生産の拡大と安定供給のためには、栽培技術管理の確立が急務となっている。栽培技術の指導、展示ほによる栽培実証を中心として紅大豆の生産支援をおこなうとともに、実需ニーズや製品開発に対応できる組織の育成を目指す。

### 活動の成果

#### 1. 生産量の拡大

| 年次 | 生産者数<br>(人) | 栽培面積<br>(ha) | 生産量<br>(t) | 試作品数 |
|----|-------------|--------------|------------|------|
| 18 | 23          | 16.3         | 18         | —    |
| 19 | 48          | 40           | 30         | 16   |
| 20 | 52          | 48           | 42         | 3    |

#### 2. 紅大豆を活用した商品の拡大



紅白饅頭  
(べにはくまんま)

紅大豆煮豆 幻の紅大豆



紅豆腐



### 活動の経過

#### 1. 栽培マニュアルの作成ならびに適正管理の実施、徹底

- 産地研究室と協力し、紅大豆栽培マニュアル、栽培暦の作成をおこなった。施肥量、播種時期などを中心に作成しており、改良を続けていく予定である。
- 生産者間の収量・品質には差があり、安定供給の観点からも栽培技術の向上と平準化が必要なことから排水対策・雑草対策を中心とした大豆ほ場の適正管理を推進した。
- 実証ほを設け、栽培暦暫定版の検証と改善を図った。栽培暦に準じた栽培管理ができれば目標収量は達成できる結果となっている。
- べと病による子実の汚損が目立った。果皮の色が特徴であることから特に子実の汚損が問題になるため、べと病防除を必ず実施することとし、栽培暦に明記した。

#### 2. 品種固定に向けた取り組み

紅大豆は自家採種により生産されてきた。それにより草姿、果皮着色、成熟期など若干の違いが認められていたが、集団選抜的な手法で紅大豆の品種固定化を図った。町内の栽培ほ場より候補地を選定し、最終的には生産物の品質を比較して次年度以降の種とすることとなった。

#### 3. 試作品の開発

町内の事業者を中心に試作品の開発を依頼した。結果試作品として16品の試作品が作られ、求評会を実施した。今年度までに製品化されているものが10製品で

あるが、季節限定販売、イベント時販売などもあり、定番化している商品は4商品である。

### 今後の展望

生産研究会発足後、栽培面積、収量とも増加し、品質も年々向上しており、川西町内の紅大豆を利用した商品が10品つくりられ定番商品化しているものもある。

さらに、県外の菓子メーカーを中心として販売強化を計画している。

### 協力機関

川西町、川西町商工会、J A山形おきたま川西支店、町内事業者8事業所（菓子3、加工製造2、飲食3）